

報道関係者 各位

平成30年 2月13日

【照会先】

福井労働局労働基準部

健康安全課長 久々津真司

地方産業安全専門官 脇本 泰守

電話 0776 - 22 - 2657 (直通)

積雪・凍結の転倒災害等が前年の5倍に増加

～ 事業場内の玄関、屋外通路等の転倒災害が6割を占める ～

福井労働局（局長 はやき たけお 早木武夫）では、毎年12月～2月末に冬季無災害運動（別添1）を推進していますが、本年度は平成30年1月末までの2か月間で35件^{（1）}の冬季特有災害^{（2）}が発生し、昨年同期（6件）の5倍以上となっています。

このうち、転倒災害が7割超（26件）を占め、6割（21件）は事業場内の玄関、屋外通路、駐車場で発生し、気温の低い深夜から早朝と、最高気温が氷点下の昼間時間帯に多く発生しています。

今後、2月4日以降の大雪の影響で、県内の転倒災害が更に増加するおそれが高いため、リーフレット（別添2）などで、各事業者に防止措置の取組を周知します。

転倒災害防止のポイント

- 1 屋外通路には、凍結防止剤を散布することにより凍結による転倒災害を防止する。
- 2 事業場玄関には、転倒防止用シート・マットを敷くことにより、滑りにくくし転倒災害を防止する。
- 3 夜間・早朝の駐車場から事業場玄関までを安全に歩行できるように、十分な照明設備を備え、転倒災害を防止する。
- 4 耐滑性の高い靴を履くことで、滑りにくくし転倒災害を防止する。
- 5 屋外歩行では、両手に荷物を持ったり、ポケットに手を入れるなどせず、万が一転倒しても受け身を取れるようにし、被害を最小限にする。

1 1月末までに届出のあった速報値で休業4日以上労働災害

2 「冬季特有災害」とは、凍結・積雪路面の転倒、車のスリップ事故、除雪中の墜落災害など北陸地域の冬季特有の労働災害です。

冬季無災害運動実施要領

～路面・作業床の凍結・積雪による転倒災害を防止しましょう～

福井県内においては、例年、冬季における積雪・凍結等に起因して被災する労働者の割合が年々増加し、冬季の死傷者全体の2割を占めている状況にある。特に、積雪・凍結等により駐車場や玄関前で滑って転倒する労働災害がほとんどを占め、手足等を骨折する等の重傷災害が多く発生し、休業が4か月にも至る重篤な労働災害も発生している。

過去3年間の12月から2月までの冬季において、109人の方が積雪・凍結等により休業4日以上の上の労働災害に遭い、そのうち積雪・凍結等により転倒された方が85人、屋根の雪下ろし等において墜落・転落された方が7人、車やバイクのスリップ等による交通事故に遭われた方が6人といった状況にある。

年末年始は生活のリズムの変化、荷動きの増加、気象条件（積雪・凍結等）、交通事情等から労働災害が増加する時期であり、職場では、余裕をもった行動と災害防止のための特別な配慮が必要となることから、冬季の積雪・凍結時及び年末年始の非定常作業時等の労働災害防止運動を積極的に展開し、更なる死亡災害及び休業災害の減少を図るため、下記により「冬季無災害運動」を実施する。

記

1 実施期間

平成29年12月1日から平成30年2月28日まで

2 主唱者

福井労働局、福井・武生・敦賀・大野労働基準監督署

3 実施者

各事業者

4 主唱者の実施事項

- (1) 労働災害防止団体等に対する協力要請
- (2) 事業者、労働災害防止団体等が行う労働災害防止活動に対する指導・援助
- (3) ポスター、ホームページ、記者発表等による広報

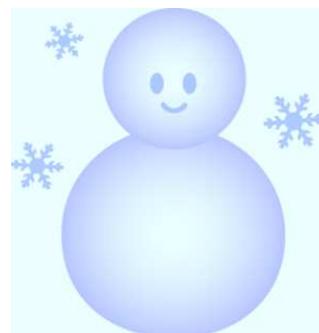
5 事業者の実施事項

- (1) 経営トップによる年末年始時期に係る安全衛生方針の決意表明
- (2) 安全衛生パトロールの実施
- (3) 積雪・凍結等による転倒災害防止対策の徹底
- (4) 交通労働災害防止ガイドラインに基づく冬季の交通労働災害防止対策の推進
- (5) 屋根の雪下ろし等による墜落・転落防止対策の徹底
- (6) 除雪機械等によるはさまれ・巻き込まれ災害防止対策の徹底

冬季無災害運動が継続中

運動期間：平成29年12月1日 ~ 平成30年2月28日

冬季災害
急増中



注意!

凍結も圧雪もシャーベットも
転倒リスクが潜んでいます

凍結・積雪による転倒 ▶ 滑りにくい靴を着用し、短い歩幅で

スリップによる交通事故 ▶ 冬用タイヤ等を装着し、急ハンドル・急ブレーキをしない

除雪車・除雪機によるはさまれ・巻き込まれ ▶ 故障・点検時はエンジンを停止

屋根除雪中の墜落 ▶ 保護帽・安全帯を着用し、作業は2人以上で



今シーズン(平成29年12月1日～平成30年1月 平成30年1月末現在) 冬季特有労働災害一覧 福井労働局調べ

	発生日	事故の型	起因物	業種	発生時刻	発生場所種類	最高気温	最低気温	降雪
1	H29.12.12	墜落、転落	はしご等	木材伐採業	8:30	敷地内屋外作業場	4.4	0.4	7cm
2	H29.12.13	転倒	通路	保険業	16:25	客先玄関前	3.2	0.3	5cm
3	H29.12.18	交通事故	トラック	建築工事業	7:55	道路	4.1	0.3	2cm
4	H29.12.18	交通事故	トラック	建築工事業	7:55	道路			
5	H29.12.18	はさまれ・巻き込まれ	その他の一般動力機械(車搭載リフター)	土木工事業	9:55	敷地内屋外作業場			
6	H29.12.18	交通事故	トラック	産業廃棄物処理業	10:30	道路	-0.1	-4.2	17cm
7	H30.1.10	はさまれ・巻き込まれ	コンベア	採石業	8:45	屋外作業場			
8	H30.1.11	転倒	通路	金融業	8:55	歩道			
9	H30.1.11	交通事故	乗用車・バイク	通信業	10:55	道路			
10	H30.1.12	転倒	通路	道路貨物車運送業	3:20	敷地内屋外通路			
11	H30.1.12	転倒	通路	化学工業	7:20	敷地内駐車場			
12	H30.1.12	転倒	通路	電気機械器具製造業	7:50	敷地内駐車場			
13	H30.1.12	転倒	通路	印刷業	8:15	敷地内駐車場			
14	H30.1.12	転倒	通路	社会福祉施設	8:30	客先屋外通路			
15	H30.1.12	転倒	通路	小売業	8:40	敷地内玄関付近			
16	H30.1.12	激突	乗用車・バイク	その他の建設業	9:00	敷地内駐車場			
17	H30.1.12	転倒	通路	小売業	9:30	敷地内駐車場			
18	H30.1.12	転倒	通路	飲食店	10:00	敷地内駐車場			
19	H30.1.12	転倒	通路	貨物取扱業	11:40	敷地内屋外通路			
20	H30.1.12	転倒	通路	木材・木製品製造業	12:03	敷地内駐車場			
21	H30.1.12	転倒	通路	電気機械器具製造業	14:40	敷地内屋外通路			
22	H30.1.12	転倒	通路	警備業	15:00	道路			
23	H30.1.13	転倒	通路	ビルメンテナンス業	7:00	道路	1.1	-1.5	29cm
24	H30.1.13	転倒	通路	接客娯楽業	7:45	敷地内駐車場			
25	H30.1.13	転倒	通路	社会福祉施設	17:30	敷地内玄関付近			
26	H30.1.13	転倒	通路	教育研究業	8:30	敷地内駐車場			
27	H30.1.15	転倒	通路	廃棄物処理業	6:30	敷地内屋外通路	8.4	-0.2	なし
28	H30.1.15	転倒	通路	ビルメンテナンス業	7:30	敷地内駐車場			
29	H30.1.15	転倒	通路	社会福祉施設	8:20	敷地内駐車場			
30	H30.1.15	転倒	通路	建築工事業	8:30	敷地内駐車場			
31	H30.1.16	転倒	通路	警備業	7:50	敷地内駐車場	10.2	-0.2	なし
32	H30.1.16	転倒	通路	小売業	10:30	敷地内屋外作業場			
33	H30.1.16	交通事故	乗用車・バイク	通信業	15:20	道路			
34	H30.1.18	転倒	通路	社会福祉施設	7:40	敷地内駐車場	8.5	2.6	なし
35	H30.1.20	転倒	通路	卸売行	7:30	敷地内駐車場	8.0	-1.0	なし

こんな所が危険です！



今シーズン(平成29年12月から)の冬季特有労働災害は、昨シーズン同時期と比較して5倍以上となっています。そのほとんどは、転倒災害であり、降雪のある日はもちろん、降雪がなくとも最低気温が氷点下となった日は多くの転倒災害が発生しています。

発生時間帯は、深夜から早朝が最も多く発生していますが、最高気温が氷点下の場合には、午前9時以降や昼前後でも駐車場等で転倒災害が発生しています。

今シーズンの転倒災害 被災者の声(40代男性 被災地 福井市内 被災日時 平成30年2月2日午前8時10分頃)

前夜から降雪はなく、積雪も減っていたので、安心して職場に向かいました。駐車場で車から降りて、少し急いで歩き始めたところ、あっと思った時には、凍りついた道で体が宙に浮きました。両手で荷物を持っていたので、受け身もとれず、見事に尻もちをつき段差で腰を強打しました。

なんとか出勤したのですが、痛みが強かったため、整形外科で診察を受けたところ、幸い腰部挫傷だけで数日で痛みはひいてきました。診察した医師は、当日の朝の凍結で7人が来院して、骨粗しょう症の人は尻もちで背骨が圧迫骨折していたと話してくれました。

凍結部は分かりにくく、出勤時の急ぎ足や小走りは本当に危険がひそんでいると体感しました。また、両手に荷物を持つのは、大変危険だとも実感しました。